

第 32 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和元年 8 月 27 日（火）午前 10 時から午後 0 時 15 分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟 第 17 会議室	
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 平成 30 年度奈良市文化振興補助金交付実施事業報告（なら国際映画祭） (2) 令和 2 年度奈良市文化振興補助金交付について (3) 平成 30 年度事業評価について (4) 次期奈良市文化振興計画について	
出席者	委員	中川会長、萩原副会長、上田委員、小野委員、倉橋委員、関根委員、谷口委員、春田委員、松下委員、山下里委員、山本委員 【計 11 人出席】
	事務局	深村市民部長、中川市民部次長、池田文化振興課長、川井課長補佐、小谷係長、荒益係長、大西、栗原（以上文化振興課）
	その他	特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会 2 人（議事 1 のみ）
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	●今回の会議録の署名は、中川会長と小野委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

- 1 開会
- 2 会長挨拶、署名委員の確認（中川会長と小野委員）
- 3 議事
 - (1) 平成 30 年度奈良市文化振興補助金交付事業 実施報告（なら国際映画祭）
 昨年度のなら国際映画祭への補助金については本委員会で審査し、交付額が 50 万円を超える補助事業は委員会報告義務があるため、主催者から報告。

 （なら国際映画祭・主催者報告）
 - ・ NPO 法人なら国際映画祭実行委員会は 3 つの使命を掲げて活動している。
 1. 国際的に活躍できる若い人材を育成する。
 2. 我が国の精神風土を生かした美しい文化を創造する。
 3. 我が国の美しい文化を世界に発信する。
 - ・ この使命のもと大事な 3 つの柱事業、なら国際映画祭の西暦偶数年でのビエンナーレ開催、奇数年の映像制作プロジェクト・NARActive、毎月 1 回の映画上映会・ならシネマテークがある。
 - ・ 昨年のなら国際映画祭は、奈良県文化会館のレッドカーペットイベントからスタートした。この映画祭は奈良で行うということに意義があり、歴史ある古都で世界遺産を会場とした上映会等が行われることに、世界

にも類を見ない映画祭として皆様に印象づけられた。

- ・世界の映画祭とのパートナーシップについて、昨年度はベルリン国際映画祭のジェネレーション部門との締結によって、子ども達が審査をする「ベルリナーレスポットライト」を実施。
- ・この映画祭の特筆すべき点は、多種多様なボランティアによって支えられているということ。ボランティアの力に一番感銘を受けたのが、世界的写真家レスリー・キーより、希林さんの写真を映画祭で展示して悼みたいとの申し出により急遽決定した樹木希林さん追悼写真展の開催。ボランティアの獅子奮迅の活躍で、またならまちセンターの1階のcotocotoさんのご協力もあり特別写真展が開催出来た。
- ・本映画祭の芯となる企画である国際コンペティションと学生コンペティションのNARA-waveの今回の特筆すべきことは、今までNARA-waveは国内の学生映画対象だったが、今回は国外の学生映画も招きコンペを行うところまで成長したこと。なら国際映画祭を通じて、若い人材が活躍出来る場を創出し続けること、また関係した国内外の人達と引き続き連絡を取り続けられていることが、私達の映画祭の大きな価値として成長していると実感する。
- ・若い世代を育成していくための10代の皆さんが主体的に参加出来る企画として、2018年度よりユース映画制作ワークショップ、ベルリンとの連携での子ども審査員部門など。長編部門5作品、短編部門5作品をそれぞれ高校生たちが審査し、結果をクロージングセレモニーで発表した。高校生が大人顔負けの議論を繰り広げる様子は非常に感動的であった。今後10代自ら上映会を作っていくところまで成長出来ればよいと思う。また映画制作ワークショップ上映も行った。昨年8月の夏休みを利用して、中学生たちで短編映画を2作品作るワークを開催。少年少女たちが映画に関わる機会をこれからも創出し続けようと思っている。
- ・映画祭の国際コンペティションの成果の一つである映画制作においては、昨年度は2016年度に最優秀賞を取ったアイダ・パナハンデ監督による天理市を舞台とした映画「二階堂家物語」のお披露目上映をオープニングセレモニーで行った。この作品は今年の1月25日から4月まで全国上映をしており、国外の映画祭への出品を今なお働きかけている。
- ・他にも多彩なプログラムを行った。春日野園地での星空上映会、奈良国立博物館のなら仏像館の前でのアートインスタレーション、自転車発電上映会などのイベントで皆さまに楽しんでいただいた。
- ・最後のクロージングセレモニーでは以下の作品群が受賞した。ゴールデンSHIKA賞はアグスティン・トスカノ監督の「THE SNATCH THIEF」。観客賞はペンフェイ監督の「THE TASTE OF RICE FLOWER」、そして学生部門のNARA-wave最高賞には、「オーファンズ・ブルース」京都造形芸術大学の工藤梨穂監督。審査員特別賞はイネス・デ・リマトレス監督「DE MADRUGADA」、観客賞もまた、「オーファンズ・ブルース」が二冠受賞。各賞受賞監督の中から中国人のペンフェイ監督による奈良県を舞台に映像制作を行う映像制作プロジェクトNARActiveが現在進行形である。
- ・映画を通じて国際的に活躍できる若い人材を育成することを第一義に掲げる当会としては、ユース映画制作やユース審査員の新たな企画を始めたことは記念すべき喜ばしい出来事であった。なら国際映画祭の開催が、奈良市の文化振興はもちろん、世界を目指す若者や、日本の映画界にも有益な活動として、今後も末永く継続出来るように頑張ろうと思っている。
- ・2008年のプレイベントから10年が経った。2年に一度の本祭がなら国際映画祭と認識されている方も多いが、この映画祭には3本柱があり、本祭以外に普段は1ヵ月に1度、第2金曜・土曜・日曜の3日間シネマテークを実施している。作品によってばらつきはあるが平均400名くらいの方が観に来るプログラムに成長していて、これは非常に好評と言える。週末のみだが400名近い方が映画を求めて来る土壌が育ちつつあることも認識していただければと思う。シニアにとって1ヵ月に1回の心の支えになっているところもあるので、今後も拡大していきたいと思っている。

- ・ NARActive のプロジェクトについては映画制作なので皆さんに見ていただく機会がないが、2010 年度の第 1 回の映画を作ったのが最初で事業費 600 万円で 1 作品を作った。10 年経った 2020 年には 1.3 億円にまで制作費を拡大することが出来た。今回監督は中国人のペンフェイ氏なので中国資本が半分、国内は東京を中心に集めた。
- ・ 絶対にここだけは譲れないのが、世界の監督が必ず奈良で映画を撮るということ。奈良の人達が、経済面では自分たちの土地に誇りが持てず、皆東京など都市部に行ってしまう現代だが、自分たちのふるさとに宝物があるんだと、映像通して観るふるさとの美しさに客観的に気づかせてくれるのが映画であり、それが地元で生きる人たちの力になればと思ってやっている。実際に NARActive のロケ現場に足を運んでくださる観光客も増えつつあり、そういうところでの交流もしていきたい。

(委員から)

- ・ (なら国際映画祭で) 学生たちと一緒に来場者とボランティアの調査をして面白い結果が出た。まず来場者に奈良のイメージを聞いたところ、若手が活躍する場がない、若い有能な人材が流出してしまうと思っており、それに対して映画祭は、その部分をカバーする形で人材育成をしているという評価が出た。また、来年もやるなら絶対来るという人たちが多かったのも印象的。一方で運営面のほうでは、連絡がうまくいかない、どこに行ったらいいかわからないという意見もあった。大きくなり企業とかプロモーターがやっている映画祭と同様の規模感で見られるが故に、ボランティアではすぐ対応できないことが問題になるのだと思う。ボランティアの力でやっているこの映画祭ならではの作り方を周知していくのも手。あと好評だったのは、NARActive の天理市の人々は市役所も含めて積極的に動いていたということと、子どもたち向けの映画制作ワークショップは非常に有効であるし、ここに向けて公金を出すのは有りなのではと思う。
- ・ 持続可能性を探りつつ、その知恵を他の取り組みに教えていただきたい。(開催前に他市から報道で見て) 印象深かったのが、補助金の問題。(解決は) この委員会の尽力と思うが、そうしたことを乗り越えて来られた。応援している。
- ・ シネマテークは、映画館がない奈良市としては非常に意義のあるプロジェクトだと見守っている。継続していくために、クラウドファンディングなども始まっているのか?
→主催者：やっている。補助金もいただいている。
- ・ 椿井小学校での(かつて河瀬氏が指導した)映画作り体験は、子どもたちにとって映画を身近に感じる素晴らしい体験だった。この奈良を国際的に発信する映画祭の存在は非常に大きい。一方、地元がどんな風に見守っていくかは色々難しいところもある。ボランティアの問題もあるし、街がどのように関わるかの仕組みは、空気間の醸成みたいなものが若干必要かと、奈良町に住んでいて感じる。
- ・ どこにでもある映画祭ではなく、むしろ(映画祭を)やっていない奇数年の存在感の方が大きいのではないかな。映画祭をやるということはマスコミからも注目があるだろうし、それなりに報道もされる。やっていない奇数年の打ち出し方、そこに本来のなら国際映画祭の意義があるような気がするので、そこをもう少しアピールできないか。あるいは(本祭で)上手く持ち出せないか。奇数年に映画を撮っているという意義が奈良にとって大きいことではないか。その辺がまだもう一つ見えてこなかった。その辺りの創意工夫や方策が欲しい。奈良を画面に取り上げる価値は解るが、単に素材に取り上げた、ではなく、関わって来た市民の意識はどう変わったのかなどがもっと見えてくると素晴らしいと思うし、よりこの映画祭の持つ価値が見えてくると思う。
→主催者：カンヌ、ベルリンとの提携事業のユース映画制作は、毎年やるということで、去年から(毎年開催)を始めた。ユース審査員部門もベルリンとの提携条件で必ず続けることとなっており、

今年も9月にイベントとして行う。やっていない年にこそむしろすごいことをやっているが、それが奈良市の人たちに伝わっていない。奈良県下で撮ると（撮影範囲を）広げているが、奈良市でこそ撮りたいと思っている。しかしなかなか奈良市の人たちにパートナーシップを結んでももらえていない。本祭をやっているのが奈良市だから、奈良市で撮らなくても良いのではという考えもある。中南和を含め今までスポットが当たっていないところに光を当てるとはすごく意義のあることだが、オリンピックを前にして、世界からお客様が増えて今変わりゆく奈良市の現状や、未来にどういう一歩を踏み出すのかということ、私は絶対に今押さえたいなと思っています、開催している場所で映画を撮るのが最もだと思っています。そしてシネマテークを継続していくということ、また私たちの運営も、儲けという意味ではなく、収益を出して赤字とにならないように徐々に進めている。ちゃんとした報告が上がっていないとの指摘は去年もいただいたが、やっていることが紙ベースになっていないことが弱点だと考えている。

- ・映画祭への補助金が他の補助金と意味が違うところは、市民の文化活動を応援する補助金ではないところで、奈良の都市としてのアイデンティティ、市民のシビックプライドに関わる非常に特化した事業であるということ。河瀬監督の知名度も実績も全部踏まえて、映画祭に集中的・選択的・重点的に投資をすることが奈良にとって非常に戦略的に有効であるという決断を、当委員会が行った。委員会としては、映画祭を追い越す企画があれば、ライバルとして登場されれば結構だと思う。そういう考え方だが、（映画祭は）非常に期待に応えてくださっていると思うし、資金面でも随分と頑丈になってきたのではないかと喜んでいる。

（2）令和2年度奈良市文化振興補助金交付について

（事務局から説明）

- ・8月5日に行われた奈良市の法令審査会の審議を経て、規則、要綱について改正決定となった。
- ・公募化の実施も10月15日から11月8日と決定。合わせて審査要領、及び奈良市文化振興補助金交付募集要項についても変更、承認いただきたい。
- ・今後の予定はこの委員会終了後、第1回の審査部会を開催したい。中川会長には後ほど部会委員を指名いただく。
- ・一次審査は11月26日、二次審査を12月17日に行い交付候補事業、交付予定額、交付候補補欠事業を決定、3月の市議会に提案・決定後、交付公募事業の実施団体に内示する。

（会長から）

- ・要領、要綱については、前回委員の段階から審議し固まっているので、事務局報告ということでご了解賜りたい。奈良市文化振興計画推進委員会規則、及び奈良市文化振興補助金交付要綱に基づき、審査部会を設けて審査を行う。審査部会委員は会長が指名となっているが、委員の分野が学識経験者との方針を決めた。部会の委員には萩原副会長、山下里加委員、関根委員、上田委員、谷口委員、私の6人で構成することでご了解をいただきたい。

部会長には私、職務代理者には萩原副会長にさせていただこうと思うがよろしいか。

→委員より：異議なし。

- ・それではこの会議の後、審査部会を行う。本補助金についてご意見等賜りたい。

(委員から)

- ・ 前回指摘した、今年度募集し審査するが予算執行は来年度になることを含み置いた上でご応募ください、との内容は募集要項のどこに該当しているのか。
 - ・ 募集期間を書いてある下に事業内容は令和2年度の実施事業であると併記したらどうか。選に漏れる可能性があるということも注意事項に入れておくように。
- 表紙にある募集期間の下に（令和2年度実施事業と）追記する。注意事項も入れる。

(3) 平成30年度事業評価について

(事務局から説明)

- ・ 計画の推進状況確認のため毎年度の事業報告を行っている。平成30年度は委員にも事業視察をしていただきご意見も反映している。
- ・ 資料2から資料4参照。事業評価を見ると、出来るだけ広く参加者を募りたいという意図があるが、事業によっては目的や目標を明確していない為、対象も絞られないという状態にある。
- ・ 全体の来館者が少なく、年齢層が高い中、昨年度と比較して教育機関との連携を探る、施設の外へ出ていこうとの意識が感じられる。文化振興課としてもバックアップ出来ればと思う。
- ・ 昨年度の事業評価では、奈良市美術館では学芸員の不足や館長の不在という体制面の問題をあげたが、今年度事業では外部人材の活用など、企画内容の向上に努めている。

(委員から)

事業評価全体について

・ 事業評価の在るべき姿として、新しい文化芸術基本法や、劇場音楽堂活性化法の持つより強い社会包摂型の概念に奈良市の次の計画は立脚すべきと思っている。先ほどのなら国際映画祭や文化財も含めた歴史資源の活用、奈良の誇りとするもの、観光振興や文化産業育成に繋がるようなものは都市文化政策、奈良市内の0歳から100歳まで、男性女性、低所得者、時間のない人、健康に恵まれない人、家族に恵まれない人たちに対しての社会福祉の観点に立った芸術供給政策の視点をもっと濃厚に入れたものを市民文化政策、というように大別をする。両方にかかるのもあるが、グルーピングをして政策を分けたら良いと思う。

人材育成について

- ・ 若者の参加が少ない、専門人材がいないなど共通した課題があると感じる。これを次年度の計画に反映させるため、課題として抽出しておいて欲しい。

各文化施設のミッションの明確化について

- ・ 根本的な問題だが、ミ・ナーラの業態と美術館というのは非常に難しい。少しエンタメ系の展示や参加型などオープンに市民が楽しめる場所に変えていく方向もあるかと思う。その館に応じた事業展開と、同じようなイベントが重ならない工夫、全文化施設の立体的な全体運営と交流が出来れば良いと思う。それぞれのホールで差別化をする時期ではないか。
- ・ 担当が一番現場のことを解っており苦労している。担当が思っている公共的な正義感とか、使命感を実現するためにはこうしたいと、むしろ現場から出て来るのが当たり前で、それを受けて私たちが矢面に立つから思いを遂げてくれというのが審議会の役割。現場が気づいていないのに、審議会主導であしろうこうしろと

言うのは不健康だと思う。公共施設としてのミッションをもっと明確に出すことが必要。

- ・ホール使用経験からの実感としても施設のミッションをちゃんと理解したスタッフ、プロジェクトリーダーが必要だと思う。

文化施策についての研修の必要性について

- ・中核市の奈良市も県なみの力を発揮せねばならない。必ず年間1回か2回は担当者レベルで研修をやって欲しい。文化行政に関する行政担当者研修は文化政策担当だけでなく、財政や総務、行財政改革室、人事、などもきちっと受けてくれと呼びかける。
- ・ホールの担当者には、政策の勉強とアートマネジメントの研修も受けて欲しい。美術は何なのか、音楽は何なのか、演劇は何なのかも解らないままホールの配置に付くほど悲劇はない。人材育成について、アーティストの育成は市町村では無理で大学がやること。市町村はアーティストをコーディネートしたり、事業をプロデュースしたり、ファシリテート出来るような中間人材を市民の中からもっと育成しないといけない。

その他

- ・奈良市美術館で今年度は外部人材を活用するとあるが、どのような人材か。広報はいつから？
→（事務局）奈良で活動する一般社団法人、学校など様々から意見をいただき企画を進めている。広報は冬頃行う予定。

（４） 次期奈良市文化振興計画について

（事務局から説明／資料5参照）

- ・次期計画の目的／令和2年度未終了の現計画後の文化振興の基本計画として次期計画を定めようとするもの。令和2年度末は第4次奈良市総合計画の終了年。
- ・策定スケジュール／既に開催分も含め全7回の会議予定。今年度2月構成案を提示、来年度夏頃に骨子案、秋頃に素案を提示し、パブリックコメントを実施したのち、最終案へと進んでいきたい。
- ・次期計画の視点／市民文化の振興と都市文化の振興という2本柱は、次期計画にも継承していきたい。次期計画では計画全体を横断するよう「2つの視点」という形はどうかと考えている。
- ・次期計画の内容／これまでの委員からの意見をどのように反映するかを提案するもの。
奈良市文化振興条例では、18の項目について「基本方針」を定めることとなっており、奈良市文化振興計画の各項目冒頭に掲載している。「基本方針」は条例上、定める必要がある部分になり、次期計画については原則継承していければと思っているが、一新することも選択肢のひとつかと思う。ご意見をいただきたい。
→（委員）条例改正しない限り18項目の基本方針は変えられないのではないか。これはこれで柱としておいて、柱がそれぞれ市民文化、都市文化に分かれるという形でよいと思う。
- ・文化施設の位置づけ／文化関連施設の位置づけやビジョンを明確にするために記載を設ける
- ・観光・シティプロモーションの視点／現計画は市民文化振興の視点が強く、観光やシティプロモーションにつながる施策はあまり含まれていない。また、網羅的な内容であるとの指摘がある。
- ・戦略性／次期計画では、「市民文化の視点」と「都市文化の視点」を取り入れ、18の項目の「基本方針」を前提に、施策を整理したいと思っている。また「戦略項目」「重点項目」のような形で、計画全体にメリハリをつける構成を考えている。
- ・社会包摂、対象を意識した計画／現計画でも一部触れているが、次期計画でも継承していきたい。

- ・現計画は各項目に「事業の具体例」が含まれているが、評価結果や社会動向に応じて事業自体は形態を変えていくので、具体的な事業名を載せるのではなく、委員会で事業一覧・評価を見て計画に則った事業が行われているかを確認いただければと思っている。
- ・奈良市文化振興補助金／計画にて位置づける。
- ・次期計画を策定していくための必要なデータや情報については、事業評価シートにて文化事業の実施状況は把握している。また、総合計画において、市民意識調査を行っているところだが、市政全般に関わるものなので文化に対する個別の質問などは含まれていない。文化施設においては事業アンケートや利用者アンケートをとっている。

(委員から)

奈良市総合計画での文化振興計画の位置づけについて

- ・総合計画は第5次計画になるということだが、文化振興基本計画とは関係なく総合計画を作ることはないようにしていただきたい。
- (委員) 第5次総合計画の策定のアドバイザーをしている。来月奈良市で合計6回、市民が奈良市の未来のビジョンを考える「わたし×マチ 2030」ワークショップを行う。そこから各施策が紐づいて計画されていく。
- ・生活文化の向上が経済に大きくプラスに反映していくという視点を整理していくことが、文化の位置づけとして必要ではないかと思う。

文化施設の位置づけについて

- ・指定管理者自身が理解をしておらず、施設運営の協働の意見を取り入れることを拒む施設もある。現場に全くミッションがないと、運営がうまくいかない。施設のミッションは一刻も早く決めるべき。
- (委員) それはすごく重大な問題。計画が絵に描いた餅になっている。ミッションの確定という作業をしないまま、施策評価、行政評価をすると、苦行を強いていることになりかねない。文化施設からも現場とは関係ないと考えている印象があり、正直な反応だと思う。しっかり共有認識を築くことが求められている。

人材育成について

- ・文化財が危機的な状況にあり、忘れ去られて消えていくような文化財が非常に多い。優秀で資源として活用出来るものを次々と光らせていくことはしているが、地域の重要なものが今消えかかっている。公的な施設というのは一つの役割として、地域にも光を当てて、そういう理解を少しずつ市民に醸成させるというものもある。奈良市の山間部など非常に素晴らしいものが消えかかっている。補助金では一時的には維持は出来るが恒久的に維持出来ない。若い人をいかに継続的に関わらせるかということが大事だと思う。
- (委員) 条例上の基本方針項目の3番と4番に関わる話。放っておいたら滅びてしまうものをどうしたら残せるかということ、ちゃんと立案して政策提案すべき。改正された文化財保護法も次期計画では参考法令として挙げておいて欲しい。文化財保護に関しても我々は活用と保護との連携で意見を述べることを教育委員会とも共有してほしい。
- ・問題意識として持っているのは、0歳から対象の施策をする必要性。図書館ではブックスタートに取り組んでいる。奈良市でアートスタート事業はどうか？検診会場に行ったら絵を描くドローイングのおじさんがいて一緒に描いたり、粘土をこねているお婆さんがいたり、小編成の楽団がいたりなど、奈良だからこそ出来

ることをやってみてはどうか。子どもは音楽を聞いたら本能的に体を揺らす。表現することは一つの権利なのだと思う。

→・妊婦対象に、胎教として妊婦の頃から絵本やアートで豊かに過ごして欲しい。その環境が奈良にはある。

- ・文化施設で今ロクマルカードといって、60歳以上や身障者の方が無料になるなどあるが、マタニティー割引など導入したら良い。
- ・有料は有料でやって子どもは無料にするとか、低所得者の子どもにはバウチャーを送付して交換できる等方法を考えるべき。
- ・長野県長和町の黒曜石体験ミュージアムでは、地元の小中学校生徒全員を対象に、単に黒曜石が面白いということではなく、子どもたちに博物館や歴史を勉強することはこんなに面白いことだと教えている。文化財は子どもたちの時代から関わらせると生き返る。子どもたちは郷土の宝を意識して育つ。これは循環ということ。こういったことを明瞭に描ける計画にしてはどうか。
- ・彫刻のあるまちづくり事業というのがかつてあって、今も街中にパブリックアートが10点くらいある。例えば子どもを連れて街歩きをして、これは誰の作った何であるではなく、何に見えるかと考えてさせるなどでもいい。ファシリティーマネージメントをクリエイティブにしていくようなプロデュース人材を作る仕組みづくりが必要だと思う。今はものはあるがそれを活用出来る仕組みがない。もちろん保護も必要だが活用も必要というところを次は考えていくべき段階に来ていると思う。
- ・プロデューサー型市民、アートコーディネーター型財団職員とか、アートファシリテーター型現場職員などをイメージして、人材育成していくことを考えていく。また法律や他市の状況も変わるので、年に1回の研修は絶対必須。アートマネージメントの技術は変わっていくので、きちんと情報共有をしてあげないとけない。

次期計画策定のための意見収集について

- ・利用者のアンケートは市民の意識を調査するいい機会であり、最大限活用されたい。今のところ文化施設のアンケートは紙ベースだが、若い世代は紙のアンケートを書かない人がすごく多い。色々な美術館でやっているタッチパネルやQRコードでメールでも出来ると抽出しやすいと思う。ぜひ従来のアンケートのやり方だけではなく、もう少し奈良市として使えるものは使って意見を集めてもらえればと思う。
- （委員）現在やっている施設利用者アンケートを全部集めて委員会に報告して欲しい。
- ・奈良はやはり文化が重厚で、神社仏閣からもどういった取り組みをやってもらいたいのかの意見交換をされた方がいいのではないかと思う。
- ・奈良市と指定管理者、利用主催者、そこに来るお客様、これらの間がうまく出来ていない気がする。もう少しきちんと意見交換し、研修し、それをこれからの活性化や、どうやったら利用しやすく楽しくなるか、特に若者が来るようになるかなどを考えていったらいいと思う。
- ・検討するための資料が、今出ているものでは足りない。現場の意見、現状についての情報が欲しい。

観光の視点の効果について

- ・例えばなら国際映画祭は都市文化の振興の視点が主だが、子ども達と映画を作るなど市民に対するアプローチもあって市民文化の振興とも重なっている。もっと言うとそれは循環するのではないかと思う。観光型事業に予算を配分して強く推していく中でも、文化芸術に循環するような継続性の意識を持つ必要がある。地域の見えていない文化が消えていくことに関しても、観光施策において他分野と循環する視点を持っていけば、下支え出来るかもしれない。奈良市が考える観光というのは、持続可能なものであったり、文化芸術と

の連動であるとうたっていくことがとても重要ではないかと思う。

- ・次世代の育成とか、若者や子どもに対する文化的投資の視点を持つということは、観光振興における地盤を厚くすること、基礎力を作り将来のエネルギーになることであると入れたらどうか。奈良に居る子どもたちに投資することが観光の厚みを作る、それが循環だと思う。
- ・市民文化と都市文化の推進と支援というのはシームレスで繋がっていると思う。循環させる仕組みは絶対必要。そこには元になる哲学が必要だと思う。恐らく市民文化も都市文化も何のためかは、突き詰めていくと同じはずで、職員だけじゃなくて市民も一緒になって考えていく機会と哲学を繋いでいく人材の育成が必要になってくる。次回の計画でぜひ盛り込むべきだと思う。

評価指標について

- ・今ソーシャルインパクトのロジックツリーを作るのが一つの流れになっている。簡単でいいのでまず計画を作ってやれば良い。ロジックツリーについて、事業評価シートをもとにして施設ではどういう指標で貢献しているかが実感できることが必要。どこで貢献できるかを施設で話合っ、指標が積みあがって欲しい。それは是非次期計画でうたって欲しい。

その他

- ・文化施設の運営や補助金の対象事業に対する効果とかは、集客だけでない物差し作りが大事。クラウドファンディングなども検討してはどうか。ノートルダム寺院の火事の例でもわかるが、文化を守ろうという意欲はあるので、資金を集める仕組みを作っていくことも大事ではないか。
- ・奈良市のふるさと納税で文化を商品にしたものなどアイデアとして検討いただいてもいいかなと思う。
- ・文化事業のこういったものが内容としてあるのかを、見える化して情報提供するというシステム、ツールを整備していくことは急がれるのではないかと思う。
- ・旭川動物園は旭川市が持っていつぶれかけていたものを、当時の館長さんが改革しあそこまでいった。旭川市のお金を投入しようと決断した人たちが裏にいる。そこがすごく大事と思う。それが今後奈良市の文化の振興という意味でも何か参考になるのではないか。
- ・次期計画が出来た後に市民への周知をどうするかということを最初から考えて動いた方がいい。その時に非常に解りやすい、かわいい、恰好いいパンフレットなり、HP なりが出来れば施設の人にも渡せる。
- ・計画というと行政の計画だと皆思っているが、そうではない。住民の役割、財団の役割も書いたらよい。そのような役割分担をきちっと書いて、住民自治と団体自治という一つの交通整理も必要かと思う。
- ・現状と課題、数字をきちんと分析する。例えばこの 10 年、もっと長いスパンで人口がどれだけ減っているかなど。そしてこれからどれだけ減っていくのか、若者がどうなるのかというのも他の数字も含めて、冷静に入れて欲しい。
- ・2 年か 3 年単位の短期重点指針としての文化振興実施計画が必要ではないか。

以上、議題終了

(事務局から)

- ・次回の会議日程は改めて調整すること、会議録は中川会長と小野委員の署名・押印いただくことを確認。
- ・この後、第一回の補助金審査部会を開催する。指名された中川会長、萩原副会長、山下里香委員、関根委員、上田委員の出席を確認。

